



健康と温泉フォーラム 第29回月例研究会のご案内

■ 主催 NPO法人健康と温泉フォーラム 地域活性学会

■ 日時 2012年7月31日(火)13:30~16:30

■ 会場 上野・東京文化会館4F 中会議室2

東京都台東区上野公園5-45 TEL 03-3828-2111 JR 上野駅公園口出て正面すぐです。

■ テーマ「温泉とスパ産業の協働による伝統的日本の温浴文化の再生」

講師 岡田友悟 (NPO 法人日本スパ振興協会理事長)

合田純人 (NPO 法人健康と温泉フォーラム常任理事)

■ 講演内容

欧州のスパ産業の発展形態はテルメ(テルマーレ)といわれた古代ローマ帝国の温浴文化に裏打ちされ、温泉であろうが、温水であろうが、高温・低温の蒸し風呂、と入浴及びマッサージなどのセラピーと組み合わせたシステムチックなものであった。同時に限られた階層の利用から1900年代に大衆化するまで、何代もの進化の系譜がより健全で充実したライフスタイルをもとめる文化思想によって保たれてきた。そして社会制度によって保養サービスの需要・供給が担保され、関連技術と医学知見などの継承が可能になった。現在で言うウエルネス思想は病気や公衆衛生とは切り離されヨーロッパ市民生活の中にしっかりと着床している。一方、日本では第二次大戦後の混乱と社会環境から、行政指導のもと、温浴文化は公衆衛生と言う前近代的な思想に縛られ、健全な発展が阻害され、またその伝統と技術の継承が日本固有の生活文化・思想として進化することはなかった。このような歴史的、社会的環境の中、特に海外旅行が大衆化した昭和中期から多くの日本人が海外のスパサービスを体験し、こうした観光客の国内需要が新たな欧米文化の一つとしてスパ概念を導入するキッカケとなったが、決定的に重要なのは欧米のウエルネス思想とライフスタイルを停留させたまま、国内の社会制度と生活文化に裏打ちされず、施設サービスのみが模倣され、導入され、その上に即応型の欧米風スパ概念の展開を図ったのが、現在の日本のスパ産業混迷の根芯ではないか？温泉産業界も同様で、公衆浴場法、温泉法、入湯税など旧式な社会制度改革の必要性が叫ばれ、本年10月後半に、「日本の温泉の変革を考える」をテーマに新潟県越後妻有に行政、文化、産業、医療など温泉の専門家が参集し、温泉と温泉地を取り巻く現状の改革のため、温泉と温泉地が国民の信頼にどのように答えていくか協議する予定です。10月の会合に向け、今回の月例研究会では、特にスパ産業関係者・専門家を交え、日本の温浴文化の制度的改革とその問題意識の共有と協働を図り、健全な日本の温浴文化のあらたな展開の課題と展望を討議する予定です。是非ご参加ください。



プログラム

「温泉とスパ産業の協働による伝統的日本の温浴文化の再生」

1300 受付

1330 司会・背景説明

1340 問題提起

プレゼンテーション(スパ産業関係者)

プレゼンテーション(温泉産業関係者)

1500 休憩

1515 ディスカッション

1630 終了

- 参加費 健康と温泉フォーラム・日本スパ振興協会・地域活性学会会員 2000 円
一般の方 3000 円
報道関係者・学生 無料

(当日会場受付で承ります)

- お申し込み・お問い合わせ

NPO法人健康と温泉フォーラム事務局までE-mail またはFAXにてお申し込み下さい。定員先着順40名とさせていただきます。お早めにお申し込みください。

E-mail info@onsen-forum.jp FAX 03-6804-8575

NPO 法人健康と温泉フォーラム事務局宛

参加申込書 第29回月例会(2012年7月31日(火))に出席します。

● お名前
(複数可)

● 団体名

● 住所

● TEL

● FAX

● E-mail